ご挨拶

矢野達雄

私は、憲法９条をまもる愛媛県民の会の代表幹事の１人で、矢野と申します。ひとことご挨拶いたします。

安倍晋三内閣が成立して、ほぼ半年が経過しました。この間、安倍内閣はいかなる実績を残したでしょうか。昨年末の臨時国会において、教育基本法の改悪を強行いたしました。また同じ国会で、防衛庁を防衛省に昇格させました。いずれも保守派にとっての長年の悲願を、内閣発足早々に達成したと安倍首相は胸を張っています。しかし、これらが日本国民の将来にもたらす影響には甚大です。前者は、国家の遂行する戦争政策に唯々諾々と従う少国民を育成しようとするものです。また、後者は、自衛隊の海外派遣を本来任務に格上げし、これによって、自衛隊は「専守防衛」の建前すら逸脱し、名実ともに海外派兵型軍隊に転換することになりました。

さらに、安倍首相は「自分の任期中に憲法を改正する」ことを公言した戦後初めての総理大臣です。今、憲法「改正」の前提となる国民投票法案の行方が政局の焦点となろうとしています。政権与党たる自公は、国民投票法案を今国会に上程することを決めました。これに対して、野党第一党の民主党は、本音は国民投票法案成立に前向きだが、近づく参院選挙を考えると対決姿勢を打ち出しておかなければならないということで、腰は定まっていません。

しかしこのような永田町の動向は、国民の意向を反映しているでしょうか。安倍内閣の目指す方向が国民の意志とかけ離れていることは、最近の支持率の続落を見れば明らかでしょう。わたしたちは、このような安倍内閣の危険な改憲策動を一日も早くやめさせなければならないし、今後の闘い方によっては、それは十分可能だと思うのです。

さて、今日のゲスト・スピーカーは、アレン・ネルソンさんです。あとで紹介があると思いますが、アメリカ軍の海兵隊員としてベトナム戦争に参加し戦った方です。私は、予習としてネルソンさんの著書『戦場で心が壊れて』という本を読みました。読み進めていくうちにおやっと思ったのは、ネルソンさんの語る時代状況と私の感覚とがぴたっと一致していたからです。ひょっとすると、この人の年齢は私と近いのではないかと思い、プロフィールを見ました。1947 年ニューヨーク・ブルックリン生まれとありました。私は、1949 年生まれですので、かなり近いといえるでしょう。

ネルソンさんはベトナム戦争に参戦し、ベトナム人と戦い、ベトナムの人々を多数殺したと言っています。そしてその時受けた精神的傷がもとで、除隊後 PTSD にかかり、相当苦しんだとあります。

他方私は、当然ベトナム戦争には行っておりませんし、ベトナム人と戦うこともありませんでしたし、誰も殺しておりません。したがって、PTSD で苦しむということもありませんでした。ただ、一緒だなと思ったのは、なぜアメリカはベトナムと戦うかと理由を聞かれて、ネルソンさんは「ベトナムを共産主義者の脅威から守る」と考えていたと述べているところです。私も、当時高校生でしたが、ある友人と、なぜアメリカはベトナム軍事介入するかという話をしていて、「それはベトナムがベトコンの手に落ちれば、共産主義がアジア中に蔓延するからだろう」と答えたことがあります。その答えに憤慨した友人は、席を蹴って立ち去り、しばらく絶交状態がつづきました。これは、いわゆる「ドミノ理論」そのものですね。もちろん、その後私はこのような考え方を脱却し、友情は回復しましたが、太平洋を隔てて若者にこのように言わせる宣伝が行渡っていたことを物語っているでしょう。

先ほど述べたように、ネルソンさんと私の境遇はおおいに違っていました。それはなぜでしょうか。それは、日本には憲法第 9 条があったからではないでしょうか。私たちが生まれた数年前に終った戦争で、日本は負け、アメリカは勝った、そのことが大きく運命を分けたのです。負けた日本では、憲法には第 9 条が書き込まれ、日本の軍事行動は 60 年間抑止されてきました。しかし、勝ったアメリカはどうでしょうか。その後、朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガン戦争、イラク戦争と果てしなく泥沼の闘いに若者を送り出しています。もし、日本に 9 条がなかったら、日本はアメリカの戦争に参加し、多くの若者（その中には私も含まれます）が殺し殺されていたでしょう。いま、憲法 9 条をめぐる情勢が戦後最大の危機を迎えているいま、あらためてそのことを確認しておきたいと思うのです。

（2007 年 2 月 24 日）

注）この挨拶は、当日不手際のために述べられませんでした。折角準備したので、ここにアップしておきます。